



徳成寺 寺ともかわら片反 第162号2020年6月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

この度のコロナ危機を、皆さんはどう受け止めていますか？

長野県・諏訪中央病院名誉院長の鎌田實さんは、ご自身の出生や

貧しい中でも愛情を注いで育ててくれた両親への感謝の気持ちを込めて

「にもかかわらず」という言葉を大切にされているそうです。何気ない言葉

ですが、ものすごいパワーが秘められた言葉だなあとあらためて痛感しています。

生きるって、「にもかかわらず生き抜く」ことですね。大地震や津波もあるし、

はたまたコロナ危機と。また自分自身も年を寄せたり、病気になったり、

にもかかわらず今日まで生き抜いて来た、そんなたくましが私たちを

支えています。苦しい時不安な時こそ「にもかかわらず」を思い起こしてみてください。

*Facebook 徳成寺・twitter@tokujoji_kagawa で、法話の動画を配信しています。ご覧ください。

発行責任者
住職
大山 健児
坊守
大山 ひびみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、長男です。

門徒さんから「南無阿弥陀仏」の「南無」の意味がわかりませんという質問を頂きました。「南無」とは梵語で尊敬を表す「ナマス」の発話音を当て字にしたものです。従って「南無」という漢字それ自体は「ああ」という感嘆詞を表現しているそうです。そこから親鸞さんは「南無とは帰命である」という意味を見出して私達に伝えようとなりました。「ああ」という深い頷きと共に仏の教えと出会い、拠り所にしていこうという事を見出しているとされています。背景には正信偈で語られている親鸞さんまで伝わっている浄土の教えの歴史の中で気付いた人たちの導きがあります。この度の質問を経て、長い歴史と出会うことが出来たと感じました。写真は正信偈の本です。

